

## 29P2-am091

関節リウマチ(RA)患者における臨床経過予測マーカーの検討

○渡邊 大毅<sup>1</sup>, 江川(岩城) 祥子<sup>1</sup>, 田村 裕昭<sup>2</sup>, 渡辺 泰裕<sup>1</sup>(<sup>1</sup>北海道薬大, <sup>2</sup>北海道勤医協中央病院)

【目的】全身性炎症性疾患である関節リウマチ(以下RA)は、発症早期のRA患者の疾患活動性が、その後の関節破壊の程度を左右するといわれている。RAの早期診断と臨床経過、特に関節破壊を予測することがその後の患者の治療法選択、しいては患者のQOLを維持することにも繋がる。日本リウマチ学会による早期RA診断基準中、客観的指標としてリウマトイド因子(RF)があるが、特異度、感度に問題がある。またMRI(磁気共鳴画像)や単純X線では、結果の読映に際し、評価が難しいといわれる。今回我々は、早期RA診断時における客観的な新たな臨床経過(特に関節破壊)予測血清マーカーの検索を試みた。【対象・方法】早期RAと診断され、継続治療・観察ができた13症例を対象とし、初診時、3年経過時の血清を用いた。RF、マトリックスメタロプロテアーゼ-3(MMP-3)、抗シトルリン化環状ペプチド抗体(抗CCP抗体)、抗カルパスタチン抗体はELISA法で測定した。またレントゲン写真からradiographic  $\Delta\%$  of max score(X線変化を数値化したもの)、DAS28を算出した。【結果及び考察】初診時にはRAと診断されたが、経過観察の後、RAの可能性が低いと判断され、治療が中止になった患者が13名中2名いた。この2名の患者は、初診時に抗CCP抗体値のみが陰性を示していた。一方、残りの11名の患者では、抗カルパスタチン抗体とMMP-3はradiographic  $\Delta\%$  of max scoreと有意に相関していた。また、これまでの研究結果より、抗カルパスタチン抗体はMMP-3よりもRAに高い特異性を示すことが明らかになっている。以上の結果は、抗CCP抗体により早期RA患者を同定し、引き続き抗カルパスタチン抗体により患者の関節破壊を予測できる可能性を示唆した。